警察のデタラメを
県議会で浦川県議激しく追及

浦川政治局員（福岡県議）は定例県議会の二十九日、三池争議に不当介入し弾圧をつづける警察の行きすぎについて代表質問に立ち、詳細な資料をもとに、宮地県警本部長に対して鋭い追及をつづけた。以下この日の質問の概要を記してみるとともに、その中での警察の実体をのぞいてみた。代表質問に立った浦川県議は、冒頭県内の治安、警察財政、三池争議への影響をとりあげ、激しい追及の火の手をあげつぎの点を指摘した。

カラツポの交番

県警は全国を平均して犯罪の発生数に比して警官が少いということで、本年度二五〇名を増員したが他県に比してまだ十分ではなかった（警官一人年間犯罪負担率で六大府県で平均一〇・二八、福岡一八・四九）。

しかるに三月二十七日以降四・五月と長期にわたり三池争議に半数多いときは三千名を超える警官を集中している。

まず、県内一般治安をみると〝カラツポ交番〟の実体だ。

ある週刊誌で「福岡市内にある七〇の派出所、駐在所のうちカラツポになつたのが二〇％、たつた一人で勤務しているのが六〇％、その一人も本署に呼び集められて急厩事件に備え待機することになつたので、カラツポ交番は増える一方、こういう所は警官のかわりに「御用承り箱」を置きパトカーで巡回することになつた」とあるが頼りとしたパトカーも、県内六〇台のうち常時一〇台を大牟田にとられ、警察機能はマヒ状態である「泥棒をつかまえて縄をなう」という言葉があるが、本県の場合交番に行つても縄をなう警官もいなくて「御用承り箱」に犯罪の予約駐交を書いてくることに相成るがこれで一体治安の確保は出来たのだろうか。（筑紫野町の派出所のすぐ隣のラジオ店で数十台が盗まれた事件をはじめ、具体的犯罪を列挙している）

警官は餘つている？

福岡県では警官不足でスリと浪人者の天国が生まれ、ポン引きや売春婦は福岡市春吉附近に公然とはんらんし、不良・グレン隊、暴力の横行という敗戦直後を思わせる光景が随所に現われていたことを宮地本部長は一体どう承知か――。

このような軍態は、残留警官で十分取締れるということであれば、さきに発表した犯罪負担率や定員増加に重大な疑義が出てくるし、その上県財政多難な折から定員減について検討してみる問題も発展するわけである。

警察は政府のものではない

四月中の県下の犯罪統計をみると凶悪犯が昨年四月より約二〇％ふえ、窃盗の検挙率が一三％も落ち三七％になつている。

このように県内の一般治安はこれ以上許すことの出来ない所まで悪化させ、これを放置してまでなぜ三池争議に多数の警官を派遣せねばならぬのか。

多数の警官を出動させることが、却つて争議を紛糾させ、早期解決を阻んでいるという皮肉な現象さえ生まれている。

（このあと四月十八日の三川鉱、四月二十日の宮浦鉱での警官による スト破りを詳細に挙げ「完全に三井の手先となつた警察の姿であり」組合のいう三井の私兵化も、故なきにあらずときめつけている）

警察に反省を求めることは無理かも知れない、いかに県警察とはいえ、中央が政府の一機関である警察庁であり、その親玉である岸首相が四月八日の閣議で、三井三池の争議対策について「これまで警察力の行使に当つては、とかく行過ぎの非難を怖れているきらいがあつたが、こんどは遠慮なくやつてほしい」と積極的な警察力の行使を打出しているからである。

皮肉なことには岸首相自身が卒先垂範、国会の中まで警官を導入し社会党議員をゴボウ抜きをして安保改定を強行採決し、遂には国民の怒りにふれて引退せざるを得ないという破目になつたが、その岸首相の大使命を石原国家公安委員長がうけ、この方針を宮地本部長が忠実に実行されているとすればいかに県内一般の治安が悪化しようが、例え三池争議でどんな行過ぎがあろうと、平気であるかも知れない。しかし県民や三池の労働者はたまつたものではない。

なぜなら、警察は政府のためのものでなく、国民全体に対する公正なる善仕者でなければならないからである。

宮地本部長の卒直なる御見解を承りたい。

（警察の行過ぎについては以上の他に五月十八日に無実の罪を着せられて逮捕された古賀さん事件、また、労働運動に対する不当介入として六月八日勝立で起つた警官の思想調査、四月はじめ嬉穂郡日吉炭鉱労組で起つた、警官による三池派遣のオルグ調査など一々指摘して痛烈な追及を行なつた）

ベラ安の借り料

世論から指弾されている警官の会社施設利用についても、きびしく追及の手をゆるめなかつた。

× ×

警察の三池争議に対する中立性の懐疑は警官宿舎の会社施設利用についてもいえることである。

とくに、社宅内の保育園にまで警官が借上げていることは、人道上も許されるものではない。

警察は会社の施設利用について世論の批判を浴びるたびに、会社施設といえども借用料は支払つているから公正だと弁明している。

ところが、私の調査によれば会社施設は非常に安値に借上げていることがわかつた。このことは、警察は表面上は労働争議に対して中立を言明しながら、実際は会社から恩恵をうけ、警備に当つていることがバクロされたものではないかと思う。

しかし、その借上げ基準が明らかになれば、そのような誤解もとけるかもわからないので、その二、三の事例をあげて御質問申しあげたい。

【会社施設】

宮原保育園　一四四坪、一月六〇〇円（弁当四二円）

七夕保育園　七八坪、六〇〇〇円（坪当七七円）

勝立クラブ　六三坪、六〇〇〇円（坪当九五円）

港会館　二〇〇坪、一八〇〇〇円（坪当九〇円）

臼井社宅事務所、保育園　七一坪、六〇〇〇円（坪当六六円）

勝立保育園　二三七・五坪、六〇〇〇円（坪当四四円）

本社体育館　三八六坪、三〇〇〇円（坪当七八円）

【一般】

浜田北公民館　三三坪、六〇〇〇円（坪当一八七円）

炭都劇場　一八七・五坪、二五〇〇〇円（坪当一三三円）

生長の家　四五坪、一一七〇〇円（坪当二六〇円）

真宗寺公民館　二二坪、七五〇〇円（坪当三四一円）

白金電化クラブ　一四四坪、三〇〇〇〇円（坪当二〇八円）

このように会社施設と一般施設借上げに相当の違いがあるが、これはなぜであるか。明快なる御答弁を願いたい。

経費は国家負担だ

また、三池の争議に要した経費に関しては……五月二日来福した石原国家公安委員長は「三池争議に要する経費は絶対心配かけない」と言明されたことは、新聞にも公表されたことであるから、御記憶の方も沢山あろう。

一私企業の三井の首切りのために多いときは各県から五〇〇〇名以上の警察を動員、膨大な経費をつかつて、中央からは岸総理大臣までがシツタ激励して、異状なまでの張切り方であつたのも、国が全額を負担するからであろうと考えていたのは、決して私一人ではあるまい。

ところが六月八日の夕刊フクニチによると、六月七日の警察常任委員会に五月末までの動員などに要する経費六千四百余万円がかかつたことが明らかになつた。

そのうち県負担が六千百余万円ということであつた。一体、石原談話はどうなつたのだろ。

さすが、熊本県の当局も二千七百万円を国が負担すべきものとしてポンとけつたのは、当然のことである。

県下の各都市で治安が乱れるので早く警官を帰せとの「声ある声」「声なき声」も、警察当局はポンとけつておいて、学校新築の三つも四つも建つような、血の出るような純県費がそう簡単に出せるものでないことは、宮地本部長が一番御承知のはずと思う。

県内一般の治安の悪化代金六千百余万円のツケを、ポンとけるのはこんどは県民の意思ではなかろうかと思う。

これに対する宮地本部長ならびに知事のこんどの指針を伺いたい。

餘る自動車に燃料代

予算の内容に深く立入るつもりはないが、自動車燃料および修繕料についてお尋ねしたい。

三一九万円使用されたことになつているが、五月二日の警察常任委員会で発表されている自動車燃料および修繕料は四月末現在で四〇〇万円であつたのが、そのご二カ月も経つて一〇〇万円ばかり減つているのは一体どうした理由か。

また、三十五年度当初予算の中での自動車燃料および修繕費四三〇〇万円余の中から、四月三十日までにすでに一五七〇余万円配当をうけているようだが、一年間のうち、たつた一カ月ですでに三四％が配当をうけているが、これは何のため、どのように使つているかお尋ねしたい。

大牟田警察署の前に行けば、まだ立派に走る自動車が二台か三台わざわざ通路をふさいで、迷惑をかけているが、四六時中バリケード代りにつかうほど余つた自動車がある位いたから、燃料費もそう必要ないだろうと思われるので敢えてお尋ねする。

安保不承認署名など

安保改定阻止第六回全国代表者会議は、七月二日の「新安保不承認国会即時解散要求、不当弾圧粉砕」大会（全国各地）につづいて、つぎのような闘争を全国的に展開する方針をきめた。

(1)安保批准強行にいたつた自民党の不当違法な暴挙を、中央・地方でバクロ、糾弾する。

(2)「岸亜流内閣反対」大会とあわせて、新安保推進首謀者追放運動をすすめる。

(3)「新安保不承認、国会即時解散」の要求署名運動を全国的に個別訪問、街頭進出で行なう。

(4)七月中旬から「新安保不承認、民主主義擁護」の講演会、座談会を、とくに農村地帯でひらく

(5)不当弾圧には抗議行動を組織し全国民的な支援、カンパ運動を起こす。

(6)米軍撤廃、基地反対の闘いを強化、とくに厚木基地（神奈川県）に大衆動員を行なつて「U2撤去」要求などの行動を行なう

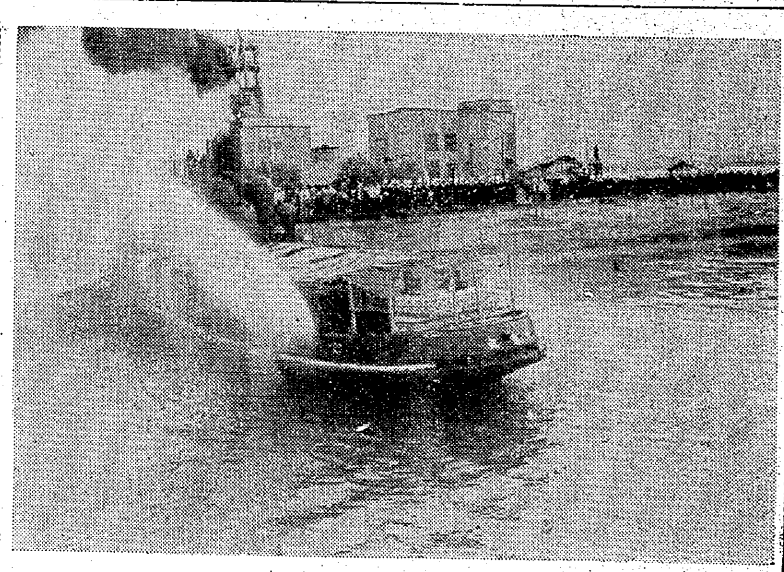
(7)宣伝活動を拡大する。

(8)日中国交回復、原水爆禁止、核武装阻止、沖縄、小笠原の即時返還闘争などの強化発展に協力する。

以上が決定された。

岸は第二の岸政権をつくつて、国民の目をゴマ化そうとする一方、国鉄をはじめ官公労に対して、安保阻止のストを国民の支援で闘つた参加者に、大量処分で弾圧をかけてきている。

この理不尽なやり方を許すことは絶対できなく、彼らの意図を粉々に砕き、総選挙まで追いつめなければならない。



たたかいの記録

立業〝処分を前にした先週は、一日一日が貴重な闘いの連続だつた主な動きを写真で拾つてみた。左上から(1)闘いの中でも四季は変り田植の時期を迎えた。動員で留守がちの組合員宅に、オルグも交え地域総出で田植えに当るところが目立つてきた(2)三日、はるばる北海道から第二陣のオルグ団一五四名が元気な姿で来山した。(3)安保粉砕第二十次統一行動が笹林公園に三万が集つて行なわれた。(4)福岡地裁には連日、仮処分申請却下の要請、抗議が続いた。(5)南新開竪坑のスト破りを封殺、活動した海上隊とピケ隊。場面は放水してスト破りする会社の船。